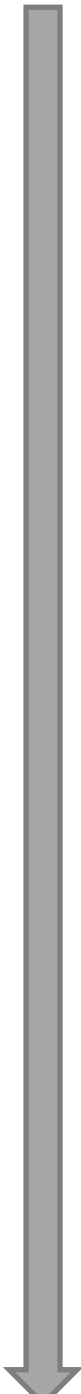


通報・届出受理後の流れ（養護者からの虐待の場合）



流れ	取 組 み	ポイント
通報 届出	外部からの通報、本人からの届出	思い悩んで通報・届出することも多い
受理	市町村（障害者虐待防止センター）での受理、受付記録の作成	聞き取りはできるだけ具体的に（受付票の様式を工夫する）
コア 会議	受付記録などを基に、緊急対応の必要性などを判断	コアメンバーの長は管理職（所属長）に 休日・夜間においても迅速・適切に対応
安全 確認	虐待が疑われる家庭を訪問するなどの方法で事実確認、安全確認	状況に応じて速やかに対応 必ず複数名で対応
対応 方針 決定	関係者が集まるケース会議を開催し、コア会議の結論や安全確認時の状況などを踏まえて市町村としての対応方針を決定	判断に迷う事例については、専門家（組織）の協力を仰ぐ 対応方針は担当者ではなく組織として決定
緊急 一時 保護	緊急に保護する必要ありと決定した場合は、やむを得ない措置などによる緊急一時保護や面会制限などを実施	一時保護先は事前に関係施設へ受入依頼 障害特性に応じた受入先の確保が必要
養護者 支援	養護者に対する相談対応や一時的な休息（レスパイト）目的での短期入所利用の調整など	特に養護者からの虐待では、一方的に責めるのは逆効果
モニタ リング	虐待を受けた人、養護者の状況を定期的に確認し、ケース会議において共有した上でその時点での方針決定	緊急一時保護の場合は家庭復帰の時期や妥当性の見極めも含む
対応 終了	安定した生活が見込める段階になった時点で対応終了	福祉サービスを利用している場合は相談支援事業所（サービス等利用計画）が引き継ぐ